

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		目指すサービスのあり方を「触れあう心がお互いにうれしい、支え合って認め合って良縁を結び安らぎのあるゆかりの里」入居者と職員が共にすごせるホームを目指しております。基本は基本的人権・家庭的な生活・生き甲斐づくりの支援を職員は取り組んで安らぎのあるゆかりの里を目指しています。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		管理者と職員は職員会議においていつも基本において周知徹底を図り日々のサービスにいかせるように率先して取り組んでおります。職員の対応に問題があれば面接をしてお互いのずれ等を確認しております。
3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		自治会に加入し、総会に出席したり、年2回千種神社の清掃したり、納涼祭に出演し、ゆかりの里コーラス隊が歌で広がるお付き合いをしたり、地域に対し「100円セールふれあい広場」においては地域の沢山の方達において頂きグループホームを理解頂きたく交流を図り取り組んできました。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		100円セールではチラシをポスティングすると家庭で不要になった食器、野菜、リサイクル品等の寄付物品が沢山集まり嬉しい悲鳴を上げています。又酸橘が届けられたり、ゆかりの里でも、野菜が豊作の時は近所にお裾分けしております。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		広報を入居者と共に近隣に配布したり、行事の度にチラシをポスティングし地域の皆様に理解が得られる様になりました。スタート時は入れないでといわれた方達も理解を示され暖かな声掛けがあります。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	開設時に介護者教室を開催し地域の方達をお呼びしました。やまびこ推進会議においては自治会長、民生委員、地域の方達にお役にたてる事があつたら声掛下さいと毎回お話をしております。中学生のボランティアには車椅子の操作の仕方など教えたりしております。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設時より全職員でミーティングをし職員と共に自己評価に取り組み合意の上で仕上げています。グループホームの質の向上をめざし改善点を明らかにしながら今後も取り組みたいと思っています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業計画にやまびこ推進会議は年4回と決め実行しております。安心ケアセンターの方達にはご指導頂きホームの見学・入居者を紹介していただいたり地域の方達と横のつながりを持っています。事業計画・報告・外部評価なども議題で取り上げ進歩的な意見を頂戴し、地域密着の福祉活動が展開出来ました事サービスの向上に活かしております。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険や生活保護に関して担当窓口にてむいたり、相談に乗ってもらうこと度々です。介護相談員も10月からは2ヶ月に1回となりましたが貴重な意見を頂いております。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	当ホームにも成年後見制度を昨年利用された方がおり、ご家族と共に取り組みました。制度に関しての理解を深めるようにしています。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止の研修に参加した職員を中心に勉強会をしました。身体拘束がもたらす多くの弊害、身体拘束廃止に向けたなすべき事などをお互いに確認しあいました。		職員は身体拘束・虐待について理解しているが、正義感の強い入居者で気になる人には怒鳴る事多々あり。入居者がストレスにならないか心配な所がある。職員はいつも気遣いをし見かけた場合はフォローに入りその場を離し、それぞれの職員のやり方で対応している。会議の中では怒鳴る本人、脳出血でも起こしたら心配の声があがる。一層の配慮が必要である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約時に充分なる説明、理解を頂いております。又リスクや重度化、見取りについては指針に基づいて説明し理解を得るように勤めております。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の不満、苦情は聞く機会が沢山あるが、内容は他入居者へもっと厳しく怒ってほしいなど……が一番多く又明るいから電気はもったいない、食事時は静かに食べましょうとかが……職員は沢山指導を受け運営に活かしております。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ゆかりの里だよりを3ヶ月1度近況を知らせており、ご家族の来訪時には利用者の状況について話し合い、苦情解決の仕組みをきちんと説明し利用者やご家族からの要望を引き出すように努めている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関にご意見箱設置しており、家族会にもお願いし不満・提案等にも直接言えない事、吸い上げてくれるよう働きかけている。意見を頂くときもある。過去に苦情等1件あり運営に反映させる体制ある</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は職員の意見・相談等は遅くまでいるので何時でもどうぞ、聞く機会を設けている。又反映させたいと思っている。職員の思いを調査して施設運営の改善につながるように勤めている。</p>	
17	<p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者やご家族の状況により職員の体制は、リーダー、他職員が常時確保出来るように話し合いがついており、突発的な事には勤務を変更し又残業で対応したりしております。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者にとって馴染みの職員が対応しており継続的に支える体制が出来ている。新しい職員が入った場合には入居者には顔を覚えるまで続けて自己紹介している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個人からの希望を取り入れ計画的に研修を受ける機会を多くもちホーム内研修・勉強会も推進している。</p>	
20	<p>の 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>千葉市のグループホーム研修会に加入しており勉強会やグループホーム同士の交流会も多く持ちサービスの向上に役立てている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>どんな社会にもストレスは付きものであり、話し合いを多く持って環境づくりに取り組んでいる。職員間の環境は良い状況と思っておりますが……今回もストレスについて話し合いを持ちました。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>興味のある事、学びたいこと等把握し資格取得について勉強会の機会や試験日等に調整している。各自が頑張っている様子を声かけしたり、向上心をもって働けるよう応援したりしている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初めに築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居者の個性を大切に特徴を捉え、本人の困っていることは時間をとり散歩時に寄り添い気持ちを受け止められるように……それってどういう事、どうしてその様に考えるの等、事柄だけではなく深い心情を探りながら聞く機会を多く持つようにしている。</p>	
24	<p>初めに築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面会時には如何でしたか？声かけをし話を聞くようにしている。相談にこられたときは色々な状況や経緯について話をゆっくり聞いて相談等がうまくいくように務めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族から情報等聞き何が必要か話し合い、担当者会議等においても共有しながら支援を話し合っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があった場合には自宅に出向いたり、又は見学して頂いたり、入居者とも話し合いの場を設けて雰囲気馴染んで頂き、本人に如何か希望を聞いたり工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者に寄り添い沢山話を聞き、感謝したり、いいところをほめて上げたりの話が多い。特に調理においては手伝っていただき味つけ等真剣にほめたりすることもある。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	4年目にはいり、認知も進みご家族との関係は外泊時も共に協力しあってお互いの思いをいったり・聴いたり日常の支援をご家族とともにつくっていくように配慮している。混乱もなく無事に帰宅出来るように連絡を取り合い支援している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ゆかりの里だよりにて近況を報告しあい、ご家族のはなしをより良い関係が保てるように支援をしている。お祭りや行事にもできるだけ一緒に参加できるように働きかけている。		
30	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少しずつ忘れる事がおおくなり、ご家族の話やお孫さんの話など会話に盛り込み楽しんでいきます。お孫さんが来たときなど(職員にとっても大切な人)おもてなしをしたり関係づくりのお手伝いを支援している。墓参りなどにも弁当持参でみんなでおまいりしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士仲よし3人組が連携をもっており、他の人達は仲間にはいれず苦慮している。職員は3人組を別々に誘い他の入居者の方達とも関わられるように、潤滑油の役割ができるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今年長期入院になり退所された方が、元気になったら戻りたい希望を受けて、サービスを利用しながら自費のSS利用できるように計らいますとお互い合意の上で了承している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望は最も大切に、多少まちがっている事も全て受けとめ(大きな声をださない・怒らない・指示的にならない)安心できる家庭的な環境に努めている。ご家族からの情報も得るようにして努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームにおいてはできるだけこれまでの生活環境に近い暮らし方ができるように支援している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	有する能力において支援している。入居者の小さな動作や心理面を見逃さないように情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者がアセスメントをし本人・ご家族・全職員を含めた担当者会議にて検討し介護計画をつくっている。ご家族に郵送し意見やアイデアを出してもらい反映させている。		担当者会議では、本人の意向は職員に気遣いをし当たり障りの無いことを行っている様に思われる。。日頃発する言葉から職員は探り、心の内を聞き出しているが、どんな時輝いていたか、落ち込んでいたか思考錯誤支援している状況です。より一層その人に寄り添えるように学んでいきます。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定された期間に、実施中の計画では対応できないような変化が入居者に生じた場合はそのつど見直している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルにて食事・水分量・排泄等の身体状況、又その日の精神状況など日々の暮らしの様子を記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の状況に応じて通院等はご家族と協力して行い、入院時も週2～3回洗濯物入れ替えしたり不穏にならないように顔出ししている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	やまびこ推進会議が発足した事により各機関との連携がとれご指導いただきながら支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーとの連携は持っているが他のサービスを利用するための支援はしていない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	やまびこ推進会議において、あんしんケアセンターの職員が参加してくれ色々な情報交換ができるようになった。又地域での認知症研修のお誘い・入居者を紹介していただいたり・・・協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の主治医はケアマネジャーでもあり、協力的である。入居者について医療的なことは、照会状をFAXすると指導してくれるので心強いです。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院といつでも連絡が取れるようにしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が1週間に1回勤務し、健康管理や医療面での相談、助言の対応している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医師やご家族と相談のもと早期退院に向けて対応している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族の協力のもとご希望であればターミナルの件も含めてを契約時に話している。そのような状態が発生した場合、協力病院や主治医と相談し今後の考えられる状態を話しあい、お互い合意の上でケアプランに記載しすすめる体制はできている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること、できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	末期癌の方がお一人おられ、ターミナルに向けて医療機関とも話し合いを進めている。今は月1回の受診で対応しているが、状態を見ながら往診の依頼もし、主治医は受けてくれている。職員は初めての事故学ばせてもらい悔いのないよう、看取りたいと話しています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	長期入院になり退所した方はいるが、情報等は渡している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>トイレ・居室のドアの開け閉めに注意しプライバシーの確保をするように徹底している。又プライバシーについての意識向上を図り、日常の関わりの中でも常に意識しながら支援している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>一人ひとりの理解力やコミュニケーションの能力に合わせた話しかけを行い解ってもらえるように支援し常に主体性を尊重し、自己決定又は決めてもらえるような働きかけを心がけている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大勢で歌うときやレクのときも表情や状態などに気配りをし、外出・買い物等の希望があるときはすぐに出来なくとも約束をして対応する様にしている。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>着替え等ご自分でできるように支援しているが、介助が必要な方やご自分で決めにくい方には本人の意向に沿うような支援をしている。馴染みの理美容院にカットやパーマを楽しんでいただいていたが、最近は訴えがない。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理・盛り付け・片付け等と一緒に楽しみ、畑で収穫したばかりのトマトやナス等の野菜を食卓にだし一緒に食べたりしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>コーヒーやお茶等好みのもを提供し、嗜好品については本人やご家族から聞き出して、できるだけ日常の暮らしの中で楽しんでもらうように配慮している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>時間や習慣を把握しトイレ誘導を行ってトイレでの排泄を促すように配慮している。必要な方には排泄チェック表を使用し排泄パターンの把握に努めている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>介助が必要な方には安全面に気を配りその人に合わせた介助方法を工夫している。介助場面が多いので夜間入浴は行っていない。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>掃除等できないと思われる人には、手すり拭きの作業も含めて日中の活動を多くするようにしている。一人ひとりの体調面に配慮して休息が必要な人には休んでいただき、眠れない方については寄り添い又希望によりアルコールも提供している。</p>		
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>調理や盛り付け、洗濯物干し・たたみなど各自が得意なものを発揮してもらうよう働きかけをしている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご自分でお金の出し入れができる人には買い物などで使ってもらい、できるだけ地域での社会性を継続してもらう様に支援している。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>季節ごとの行事、利用者の希望に応じて外出する機会を作っている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>今年は入居者の体調が悪く一泊旅行を断念した。代わりに食事会へ変更となる。来年は体調の良いとき早めに企画したい。バスハイク・墓参りには弁当をもちいけてよかった。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙を送ったり、電話をかけたりしている。電話は子機を使い話しやすくしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽にきていただけるようにしている。来訪時にはお茶を出したり話しやすい環境作りに勤めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しての勉強会・検討会を実施し指針に基づいて日常的なケアが身体拘束に当たらないかの検討している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけない自由な暮らしの支援をしている。利用者一人ひとりの精神状態を把握し、その日の行動については常に気を配っている。外出しそうな方の対応については声かけの仕方や対応について工夫している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	記録や事務作業は利用者と同じ空間で行っている。一日を通して所在を把握しながら業務をこなしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員の目の届きにくい場所では洗剤や薬品は高いところで安全な場所に保管している。職員は充分なる見守りの元、利用者は調理もし、包丁も使用しているが使い終わったら鍵のかかる場所に保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書を提出し毎回検討している。全職員に対しリスクに対する意識を高めるように努めている。行方不明者の捜索訓練を警察にお願いして2度実施し、何かの時には役立てたいと思っていた。つい最近12/3日、キソソの男性66歳行き先不明となり沢山の方達のお世話になり、無事に帰宅しました。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員が入職すると最初に学ぶのが緊急時の対応です。何度も勉強会をして各自が対応できるようにしている。救命講習を受けたりしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	やまびこ推進会議において消防署の方たちによる災害対策の勉強会をいたしました。地域の方たちによる見守り、緊急時の応援等において協力体制等話し合いが持たれ、避難場所においてもこてはし高校・ふるさと農園が協力してくれることになり実のある会議でした。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご自分の意思で生活を楽んでもらうために、できるだけ制限のない生活を送ってもらう為、精一杯見守りはいたしますがリスクはつきものだと、ご家族とよく話し合いご家族に理解してもらうように努める。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルを計り健康管理している。小さな変化も見落とさないようにしている。看護師に報告したり指示を仰ぐなど、全職員情報交換をし状態が急変したときは主治医の早めの受診をしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬の内容・副作用等ファイルされ全職員が理解するようにし、薬に対する状態の変化等についてすぐに管理者に報告する体制をとっている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分の少ない入居者には摂取量、排便の日付を記入している、繊維質のものを多く取り入れるように工夫し日中は散歩・レク等取り入れ体を動かすようにしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を話し合い毎食後の歯磨き、声かけして習慣づけるようにしている。歯磨きの難しい方においても根気良く実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方には食事量・水分量を把握し、食べれないときにはエンシュワ(栄養補助食品)提供している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルに添って日ごろより予防に努めている。インフルエンザの予防接種を早めに行い、ノロウイルス対策は手洗いうがいの徹底を図っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・布巾等は毎日消毒し冷蔵庫も点検している。調理器や台所の水周りはそのつど清掃し清潔を保っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関までスロープになって出入りしやすい環境である。季節の花やつつじ・ゆり等が毎年見事に咲いてくれる。ご近所の方達からもお褒めの言葉をいただいております。皆様も得意げである。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	シンプルではあるがイスやソファ等は家庭的なものになる様に工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲間同士で歌ったり自分達でお茶を飲んだりする機会もあり楽しみのある環境作りを工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持込の制限はしておらず馴染みの物、写真等かざり居心地良く過ごせるようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節は居間は拭きぬけでもあり外気温との差は5～6前後でありぬくぬくとはしておらず、居室においては利用者の状況により対応している。冬場も毎日散歩に出かけるが風邪を引くこともなく元気である。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをつけ安全面に配慮し歩行困難者には車椅子を用意し活動的な日常になるように工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	季節に合わせた音楽を流し、コーラスの歌詞集の入れ替えをし活動意欲・季節感もわかるように配慮している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花を植えたり、菜園を楽しんだり環境作りをし楽しんでいただいている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

ゆかりの里は4年目に入り少しずつではあるが、認知度が進み今まで出来ていた事が出来なくなってきた方達があります。共同生活において周りの方達とかみ合わなくなり、「お手伝いいただけますか」と声かけすると皆さんが「はい」と寄ってきますが、お茶を入れようとして煮魚・味噌汁に注いでしまったり、仲間から強い口調で注意されたりしています。職員はそのような場面を見せない様に工夫し、失敗をさせないよう気配りをしています。どんな時でも「大きな声を出さない、怒らない、指示的にならない」を基本とし、大事な事はやれそうな事は葱1本でも切っただき、そして沢山感謝をし、そうかーと思った事は沢山褒めてあげる。仲間同士言いあいになる事も度々ありますが、おねーちゃん(職員)達はみんな私の味方だよとそれぞれの入居者が思っています。精神的にはとても元気な皆様です。地域の中のゆかりの里のコーラス隊は歌で広がるお付き合いに益々の輝きを見せています。行事・新職員が入ったときは、大事な事は私達にも教えてもらわないと困ると、日に何度も注意され、その都度職員は誤りそして教えていただき、同じ事3日間続くこともあります。その様な愉快的仲間達との共同生活は毎日笑いあり・涙あり、元気をいただいています。すぐ仲間を怒り出す方、やきもちをやく方がいて、そんな生活の中で、他の方達は幸せとは言えないのではないかと?等の意見も出ます。まだまだ課題が沢山有り、思考と試行の繰り返しの毎日です。ご指導下さいませ。